

市民協働事業 相互評価シート

1 市民協働事業の概要

事業名称	学校でのがん教育に向けたがん患者外部講師の育成モデル事業		
実施主体	団体等	特定非営利活動法人肺がん患者の会ワンステップ	
	行政	横浜市市民局、横浜市教育委員会	
事業の目的	がん教育を学校で行うためのがん患者外部講師の育成		
事業の内容	外部講師の育成のための研修プログラムの開発および学習指導案・講義資料開発		
役割及び責任分担等	事業項目	ワンステップの役割	教育委員会の役割
	研修プログラム開発及び学習指導案・講義資料開発	1 企画及び実施 2 広報及び周知 3 記録及び報告書の作成	1 事業に関連する相談対応や情報提供 2 学習指導要領に基づく研修内容のアドバイス
			1 団体と関係区局等との連絡調整 2 事業周知協力 3 情報提供 4 会場提供協力
実施期間	①提案のブラッシュアップ 平成30年4月1日～平成31年3月31日 ②事業実施 平成31(令和元)年4月1日～令和2年3月31日		

記入日	令和 2 年 5 月 8 日
記入者	<ul style="list-style-type: none"> ・団体等名： 特定非営利活動法人 肺がん患者の会ワンステップ ・記入責任者 氏名： 長谷川 一男
	<ul style="list-style-type: none"> ・部署名： 市民局市民協働推進課 ・記入責任者 氏名： 山本、馬場 ・連絡先： 045-227-7915

1 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないます。

◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

① 事業計画段階

		肺がん患者の会 ワンステップ	横浜市
1	自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うことができましたか。	A	A
2	お互いの立場や組織の違いを話し合ってよく理解することができましたか。	A	A
3	ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合って決めることができましたか。	A	A
4	実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合って役割分担を決めることができましたか。	A	A
5	事業を始めることや計画中有であることを、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	B

② 事業実施段階

		肺がん患者の会 ワンステップ	横浜市
1	率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	A	A
2	お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	A	A
3	相手に任せっきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	A	A
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	A	A
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	A	B
6	事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。	A	A
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	B	C

③ ふりかえり段階

		肺がん患者の会 ワンステップ	横浜市
1	協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合って共有できましたか。	A	A
2	受益者が満足を得られたかどうかについて、話し合って確認することができましたか。	C	C
3	期待された事業成果を得られることができましたか。	A	A

3 事業評価相互検証シート

事業実施プロセス相互チェックシートでおこなった結果をもとに、相互で本検証シートを作成します。

提案のブラッシュアップ（平成 30 年度）

（協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。）

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

（肺がん患者の会ワンステップ）

とにかく信頼関係ができたこと。全国のがん教育を見学し、その知見をもって、市民協働推進課、教育委員会と進めたことを感謝します。

（横浜市）

29 年度の当初提案段階から、市民協働推進委員会の選考時の意見などもふまえつつ、現場である教育委員会の関連課を含め 3 者で意見を交わすことで、提案者の行いたいこと、学校現場で求められていることなど認識を共有し、30 年度の事業実施に向けより実効性の高い提案内容となった。

【今後改善が必要と思われること】

（肺がん患者の会ワンステップ）

より信頼関係を結ぶこと、そしてまず現場に知ってもらうこと。その動きを段階的に、しっかりと進めていくことが大事と考える。

（横浜市）

今後、学校教育に関する取組を市民協働で進める際には、学校現場のニーズや意見などをしっかり取り入れる場を初期の段階から作っていくことが必要であり、今回の取組はそのモデルケースともなった。

事業実施（令和元年度）

（協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。）

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

（肺がん患者の会ワンステップ）

がん教育が学校で教えられるのは決定しても、その中身までは決まっていない。その中で市民協働推進課、また教育委員会と相談しつつ、学校側の意見を共有し、信頼関係を気づき、進めたことに感謝しています。

（横浜市）

スケジュール感を共有しながらお互いのやることを進めていけたこと。また、「がん教育」を通して「いのちの大切さ」も伝えたいという目的を共有しながらプログラム内容を検討できたこと。また、令和元年度の事業実施終了後の見通しについても話しながら取組むことができた。

【今後改善が必要と思われること】

（肺がん患者の会ワンステップ）

最初から一緒に関わった今回はモデルケースとなる。今後も最初からパートナーとしての立場を維持し、進めていきたい。

（横浜市）

複数の人が関わっているが故に、「誰にどこまで伝わっているか」が共有されず、情報の伝達が難しい場面があった。

事業の成果

(協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。)

(肺がん患者の会ワンステップ)

がん教育の実施は7校。研修会は2回予定するも1回はコロナウイルスで中止となる。研修で育った20名は仲間となり、今や欠かせない中心メンバーとなっている。お互いが信頼し合い、かつ結果を出す。その仕組みの根っこができた感覚がある。冊子作成なども行い、知ってもらおう工夫も進めている。計画していたことはすべて行い、次へのステップとなっている。

(横浜市)

研修プログラムの内容や、どのように現場で活かしていくかを考える際、「団体(がん患者の方)の伝えたいこと」と「教育(先生・生徒)の立場で教えてほしいこと、配慮してほしいこと」などをすりあわせながら検討していくことができた。これは協働で取り組んだからこそできた成果であると思う。また実際の研修会でも、教育委員会の指導主事から「教育現場の立場からみたがん教育」を参加者に話してもらうことにより、これから講師になりたい人にとって参考となる機会が設けられたと感じている。

自由記入欄

(肺がん患者の会ワンステップ)

三者での協働で役割分担が最初どういう形なのか迷いもあったが、温かく、一緒に進んでくれ、気持ちよく進めたことをとても感謝しています。

(横浜市)

研修プログラムを検討・実施するだけでなく、「どんな人が」「どんな経歴をもち」「どのような人を対象とした研修を得意とするか」等を教員が知った上で外部講師を依頼することができるような「外部講師リスト」を作成できたことは、大きな実りであると思う。様々な人や団体とネットワークを組んだり、県からの助成対象となったりと、今後の事業継続目途もたっており、これからさらに広がりが期待される事業であると感じている。